

せたがや 町総連だより

第57号

発行 世田谷区町会総連合会

世田谷区若林4-31-9 ポライト第2ビル202

☎・FAX 5481-3456

発行人 会長 三羽 和彦

編集 情報誌編集委員会

編集委員長 堀江 義之

地域情報

世田谷地域

三軒茶屋の歴史と町会活動について

三軒茶屋町会 前会長 杉江 敏治

三軒茶屋という地名は、大山道に沿った三差路に田中屋・信楽（撞の石橋楼）・角屋という三軒の茶屋が早くから店を営んでいたところから、道中の休みどころの目標と呼ばれたのが始まりで、明治30年代になると、軍の施設が次々に世田谷に移転し、軍関係者を相手にした商店が立ち並び、商店街が自然発生的に形成され、明治40年代になると玉川電気鉄道が開通し、三軒茶屋にも電車が走り出しました。関東大震災後、都心で家を失った人たちが、玉電の通る交通便利な三軒茶屋に多く流入し、人口が急増し商店街も急速に発展しました。現在の三軒茶屋は、世田谷区の中でも有数の繁華街であり、「住みたい町」等のランキングにも名を連ねる人気の住宅地となりました。

当町会は、「住んでよかった街」から「住み続けたいまち三軒茶屋」へ！をスローガンに掲げ町会運営を行っています。

昨年度の活動としては、防災訓練を11月13日(日)に実施しました。震災はいつ発生するかわから



消火器操作訓練

ないため、コロナ禍においても継続して実施してきました。当日は、参加者を5グループに分けて、D級消防ポンプ操法、スタンドパイプ、応急救護、消火器操作、発電機操作を行いました。天候にも恵まれ多くの方に参加いただき、町会が用意した非常食セットや区が用意した啓発品を参加記念品としてお配りしました。その他の防災活動としては、避難行動要支援者安否確認訓練として、登録者の住所確認を兼ねて、日常生活の心がけなどを記したお手紙のポスティング、三軒茶屋小避難所運営訓練（参加者は運営委員や関係者のみ）を実施しました。

通常の活動として、公園・緑道の定期清掃、ごみゼロデーへの参加、古着・古布回収、防犯パトロール、交通安全運動の際のテント設置などを実施することができました。しかし、残念ながら新年会や日帰りバス旅行、盆踊りなど多くの町会員が楽しみにしている行事については、実施することができませんでした。

今後は、コロナウイルス感染症の分類も変更



防災訓練の様子

になったことから、社会情勢を注視しながら、地域コミュニティを活性化するためにも積極的にイベントを再開していきたいと考えています。

また、当町会は昭和8年に設立され、本年に設立90周年を迎えるにあたり、日ごろから町会活動を支えていただいている会員の皆様に感謝し、更なる絆を築くために90周年記念事業を実

施する予定にしております。

課題のひとつといたしましては、「三軒茶屋町会」のうち、三軒茶屋1丁目は太子堂地区、2丁目は若林地区に属しており、同じ町会でありながら地区が違う町で、1丁目2丁目のますますの融和が重要となっています。

北沢地域

四つの路線に囲まれたわが町松原

松原5・6丁目自治会 会長 大田 一久

松原の町の中から東西南北どこへ向かって歩いても線路にぶつかります。東に井の頭線、西に世田谷線、南に小田急線、北に京王線、四本の路線のエリア内に松原の町があり、この中に全ての施設が備わっています。保育園、幼稚園が5つ、小学校が2つ、中学校が2つ、高校が2つ、そして都立光明学園、さらに警察署、税務署、消防署、図書館、「うめとびあ」（世田谷区立保健医療福祉総合プラザ・東京リハビリテーションセンター世田谷）と在り、隣接して「せたがや梅まつり」で有名な羽根木公園が癒しの広場となっています。都内へのアクセスも良く、便利で住みやすいそんな地域が松原です。

松原の名前の由来を紹介しましょう。江戸時代初期の頃、吉良家の家臣だった松原佐渡守の三兄弟が幕府領になった頃に土着し「松原宿」となり、その在郷商人の協力を得て赤堤村の一部を開発したところから「松原村」となったと伝えられています。また松原には縄文時代の



ふれあい絆フェスタ～松原の文化祭

遺跡が何か所か発掘されており、この地には昔から人が住み生活していた歴史が残っているのです。

松原には4つの町会・自治会があります。それぞれの町会が独自のアプローチで町づくり活動を行っております。

当松原5・6丁目自治会は3本柱を中心に自治会活動を行っております。一つ目は毎月発行する「松原5・6丁目自治会だより」（8月は休刊）、二つ目は「避難所訓練」、三つ目は松原の文化祭「ふれあい絆フェスタ」です。

当自治会の一番の売りは「自治会だより」の発行です。1991年に第1号が発行されて以来30余年、その時々々の情報や地域の活動を発信しています。6月で30回目になる最終面の「松原の歴史」は読み物としても興味深く会員皆様に大変好評を得ております。

毎年11月に行われる避難所訓練は、梅丘中学



うめとびあ

校の2年生全員が参加して行われます。梅中生徒はここで必ず防災と避難所の訓練を体験します。本年は松原地区全ての防災を高めるため、4町会全体での防災訓練を実施する予定です。

ふれあい絆フェスタは光明学園の体育館をお借りして、下は幼児から90歳の方まで全ての世代の皆様が参加して行われます。去年は延べ1000人近い人が一同に会しました。松原の地には多くのエンターテイナーが活躍されているこ

とを実感しております。今後も「地域の絆を大切に」をモットーに活動を続けていきたいと考えます。

(「自治会だより」は当会ホームページに掲載されております。是非御一読ください。)

事務局 松原5・6丁目自治会 自治会館
156-0043 松原5-8-11 TEL・FAX 3321-2422
※ 自治会HPのアドレス及び二次元コード
<https://matsu56iichikai.iimdofree.cor/>



玉川地域

より良い街へ 自治会の文明と文化

九品仏自治会 会長 氷見 博子

私たちの街九品仏は「九品仏浄真寺」という古刹を中心とした緑溢れる静で穏やかな、懐かしい香りがする街です。この街を無事平穏な日常がいつもいつまでもあり続けるように、より良い街にと活動する自治会には二つの目的、手段があると思っています。それは街の「文化」と「文明」を守り、推進することです。

文化としては、あらゆる機会を捉えて、街の人たちが顔見知りを増やすことができるような自治会活動を行うことと考え、例えば「敬老の日」に合わせてそれぞれの高齢者の自宅に敬老祝品をお届けした折に、高齢者に直接お会いして健康の確認をしたり、家族の方に様子をうかがったりして高齢者が一人暮らしなのか、災害弱者なのかの情報を自治会として把握、記録し、また新就学児童に就学祝をお届けして、家族の状況、周辺の子どもの状況を教えていただ



ポンプ操法訓練

いたり、自治会運営に必要な自治会費集金や歳末の募金、日赤募金集めに街の各ブロックの当番が担当地区の会員の自宅を訪問して住民の方の様子をうかがったり、毎週のパトロール活動を通して街の安全確認（危険な場所の確認、不振な空き家の巡回等）をし、地域の人と顔見知りになり、また自治会のイベントであるフリーマーケットでは、街の若い住民たちが自治会活動の一端を知り、落語会では老いも若きも知らない同志が笑いあい親しみあう。このような活動を通して人を知り、街を知ることが何より大事なことだと思います。そういう繋がりを深め、人間関係を豊かにすることが街の文化であり、自治会活動の文化でもあり、いざ有事の際の共助への流れになるものと考えます。

そうした文化を守るために、文明としての機器があります。災害に備えての各種の機器（非



交通安全見守り

常用電源装置、そのためのソーラーパネル、ガソリン、カセットボンベ、消防消火のための各種機器、スタンドパイプ等)、街や自治会活動の為に必要な各種の機器(防犯カメラ、デジタル事務用機器、無線機)等々、街の安全安心の一翼を担う自治会活動の文明を支えるこれら機器を折にふれ準備しておく。この「文化」と「文明」が車の両輪としてかみ合っていることがき

わめて大事と思っています。

文明の機器を有効に適切に利用活用していくことが文化度の高さであると思いますので、いついかなる時でも有効利用できるような日々心がけていきたいものです。そして私たちの街をより良い在り処として、後に引き継いでいきたいと願っています。

町総連ニュース

表彰 ▼令和5年6月22日 東京都町会連合会表彰

令和5年度は3名の方が表彰を受けられ、6月22日(木)に式典が行われました。

これまでのご実績に敬意を表するとともに、今後の益々のご活躍にご期待いたします。

吉村 俊雄	常任理事	(協和会 会長)
田嶋 宏	会計	(野沢四丁目自治会 会長)
藤原 成義	監事	(北沢4丁目町会 会長)

※次号は砧地域・烏山地域の情報を掲載します。

編集後記

先の編集会議の折、自治会の存続が危ぶまれるとの新聞報道が話題となりました。住民の高齢化もさることながら、入会したら何をしてくれるのかと言った見返りを期待する人々や、自治会が住民みんなのために真剣に行っている活動を理解していない人々あるいは、悪く言えばいいところだけの結果を享受するといったある意味自分勝手な人々が増えている状況が見えてきております。今の自治会活動は、会員のためだけに行っている活動ではありません。地域の活性化はもとより、行政への注文、まちの佇まい等住環境の保護、そして災害対策など住民一人ではできないことを、また行政では手の届かないところを町会や自治会といったその地域の人々による集団が協力して行っているのです。その自治会に加入するための会費は、その地域に居住するための共益費だと思います。会費を納めることで、実際には活動ができない現役の人でも、リタイヤした人などの時間を作れる人々とともに、より安全安心で住み心地の良い地域とするために手を携えて活動していることとなります。従って地域を守るために地域の全世帯が自治会に加入すべきではないかと思うのです。今後、自治会活動が住民にとって必要不可欠な活動であるという理解を広げるために町総連として何をすべきか、区民が見える形で行政とともに組み立てて行ければと思います。

編集委員 法人格成城自治会 会長 岩波 桂三

世田谷区町会総連合会のホームページ

世田谷区町会

検索

※二次元コード



バーコードの一種で、携帯電話で撮影して、簡単にホームページを見ることができます。